

2024年度 夏季 ICYE Japan海外ボランティアプログラム 参加報告書 (単位認定希望者対象)



フードバンクの箱詰めをしている様



学童で子供と遊んでいる様子

1. 参加目的

今回私が参加したのは、最初は夏季休業期間に留学したいという目的から入った。留学は留学でも、単に語学学校で英語を学ぶよりも英語を使って何かの体験をするということがしたかったため、ボランティアができるこのプログラムに参加した。語学学校でする勉強内容は日本でもできることだが、ボランティアは相手がいり成り立つものであるため、現地の人も関わる機会が多いのではないかと考えて応募した。具体的には、英語の上達と、自分が日本にいたら関わることのないであろう人々と接して、自分の世界を広げることが目的だった。英語の上達は、自分の英語がどれほどネイティブの人に通用するのを試してみたい気持ちもあったし、言語の壁を超えてコミュニケーションを取れるのかどうかを試してみたかった。また、さらに長い期間の留学をしたいと思っていたためまずは短期間でチャレンジしてみたかったというのも参加の大きな目的である。

2. ボランティア実習内容について

色々な仕事内容のボランティアをした。一週間の中で約二日ごとに同じ仕事をして、多くの体験をした。仕事内容は、Glideという教会で給食当番のように食事の配膳をしたり、直接低所得者の人に食事を配ったり片付けなどをした。Glideは非常に有名な教会で、映画の撮影にも使われたり、サンフランシスコの低所得者支援の中心になっている場所でもあったため、貴重な体験だった。Glideに来る人たちは、多様な国の人がいて、自分が今まで関わったことのないような外国人と接触する機会になった。フードバンクで食材を配給する仕事も多く行なった。Glideはあまり現地の人と話す機会がなかったが、フードバンクは近くにいる人に積極的に話しかけたりすれば話す機会ができた。そのほかには、2回だけが学童のボランティアもした。現地の子供達と鬼ごっこやクレイアートを作ったりして一緒に遊ぶボランティア内容で一番楽しい仕事だった。

3. プログラムを通して学んだこと

私がプログラムを通して一番学んだことは、日本とアメリカの社会保障の大きな差についてである。このプログラムでは日本にいと出会うことのない貧しい人や食べ物に困っている人に多々出会うため、なぜその人たちがその状況になってしまったのかを現地の人に聞いてみたりして考えてみたところ、まず病気になってしまったことから始まる事が多く、アメリカは医療保険がないため医療費や薬代がかさみ、生活を圧迫する、ということが多くわかった。日本であれば多くの国民が医療保険に入ることができるが、アメリカでは医療保険の審査が非常に厳しく、一部の上流階級しか加入できないものであることも知った。これらを知って、日本は医療保険や生活保護などの多くの社会保障に守られていて、そのおかげで格差の少ない国になっていることを学んだ。また、街の治安の状況などをみて、アメリカの格差や暗い一面を痛感したのが非常に印象深かった。

4. ボランティアプログラムを終えての感想

今回私はサンフランシスコの低所得者支援というプログラムに参加して本当に良かったと感じている。他の留学プログラムはたくさんあったが、今回自分が体験したような低所得者と接する機会はこのプログラムに参加しないと得ることができなかったと思う。自分や自分の周りからは想像もつかないような生活の人も海を向こうにいて、それを他人事ではなく自分事として捉えられるようになる大きなきっかけになった。サンフランシスコの街では治安の悪さを感じることもあったため、のどかなところに留学すれば良かったかもしれない、と頭をよぎったこともあったが、今回のような体験を自分の人生ですることはこのプログラム以外なかったらと思うと、自分の価値観を変えることのできる経験だったのではないかと思っている。